

「西谷」というこの小さな街にも、多くの変化、発展があり、その前進を多くの人たちが支えてきたことを改めて感じました。古い街、新しい街それぞれが、その街の個性を持ちながら発展していくというのは、とてもむづかしい事であり、ともすれば単に便利でさえあれば良いと考えてしまいがちです。もちろん利便さ、合理性を求めるのは、当たり前前の事であり、少しでも美しく住みやすい街にするために我々も微力ながら努力しているわけですが、合理的で新しければと、そればかり求めていくのも、何かまちがっている感じもしてしまいます。きちんと設計され、美しく植樹された公園や、広々とした道路、整然とした街並み、そして利用可能な多くの公共施設等、本当に見ばえのする近代的な街をめぐらしていかのか、それとも、街の整備を心がけながらも、宅地化が進む中で、土の暖かさを残すことに力を入れ、例えば、昔話の生き続けられるような街をめざすのかということ、は、とても大切な事で、話し合う必

要性を痛感しています。人が多ければ多いほど、その根本的な考えや価値観は多種多様であり、それだけに「街」に求めるものも様々です。街を愛し、慈しんでいこうと思っている人ばかりではなく、仮りの住い、単なるベッドタウンとしてしか街を感じていない人も多いはず。だからといって、その人々を全く無視することもできませんし、また、無理やりに協力を求めることもできません。

様々な可能性、方向、そして多様な住人たちの願望、価値観の一つの代表のような形で、何か一つの目標をめざして動く時、誰でもたくさん迷いに悩まされるのではないのでしょうか。また、何かを行う時には、行政の力を借りなくてはならないことも多く、それに加えてそれにより生じる街の人々の利害関係も、大きな壁になってしまいうこともあります。

多数の人のために、少数の人が都合をがまんするというのは限界があり、それによって生じる対立が

あつては、街づくりの趣旨に反するような気もします。

このように、多くの考えや状況をかかえながらも、良かれと思える方向へ邁進する力を持ちたいと感じます。そしてその努力が、わずかでも実を結んだ時にこそ、無関心であった人も、街を見直し、そこから賛否の姿勢として盛り上がっていかば……と思います。「まち86」によって、西谷の多くの先輩たちの努力の歴史

魅力ある「西谷」に

川崎登美子

一 報告書を読んで

よくまとめられている現状

この報告書は、西谷の状況を大変よくとらえているので、今まで漠然と感じていた西谷の地域性や特殊性について、整理して把握することができた。

ここで指摘されているように、私も、子ども会の活動を通して、同じ町内会の子どもやその親たちと知り

を読みなおし、同時に他の街の人々の街づくりの活動を知り、もう一度じっくりと皆で話し合ってみたいと痛切に感じました。また、同誌で紹介のあった、西谷地区センターも七月に開館し、ずい分と利用されているようです。このことによっても、人々が、「街づくり」を考え、そして、「西谷」を見直してくれればと願わずにはいられません。

△西谷商栄会副会長、民生・児童委員▽

合いになった。そして、子ども会の夏の行事、ソフトボールやミニバスケットボールの地区大会で、はじめて他の町会の存在が実感となったが、西谷連合町会という全体像の認識はほとんどなかった。

というのは、このレポートに書かれているように、自分の行動範囲が国道十六号線の南側に限られていて、第一、第二、第六町内会とはほとんどかわりがない。それに比べ

て、川島町の方がずっと距離的にも
感覚的にも身近である。これは子ど
もたちも同じように感じているよう
である。通りを一つ隔てると小学校
も中学校も通学区域が異なるので、

小学校へ入学すると、川島町の子ど
もたちのかかわり方が強くなってい
く。我が家の息子は、剣道は、西

谷道友会”で西谷の方たちに、少年
野球は、川島イーグルス”で川島の
人たちに大変お世話になっている。

もっとよく知りたい歴史
現状については、ここに書かれて

いることと認識は同じようなもので
あったが、歴史についても少し詳
しく知りたいものである。特に、横

浜では他に例のない公民館の運営、
連合町内会の保育園、富士山神社の
創建など、これらの生まれた背景

や、そこに活躍した人々の姿を、あ
まりよく知ることができない。ここ
では「活力がうすれてきたと危惧」

される以前活発な活動がなされてい
たことが推察される。現在の西谷の
基礎作りをした人々の様子を知ら

いと強く感じた。その事実や人々の
様子を記録して、残しておく必要が
あるのではないだろうか。

二——魅力ある「まち」へ
子ども会活動を子どもたちの手に

一般的に、今の子どもたちは、同
年齢の子どもと遊び、年齢が異なる
とあまり遊ばないと言われるが、こ

の地域では、子どもが少ないので、
そんなぜい沢は言っていられず、年
齢にかかわりなく、遊ぶ相手がある
と喜んで遊んでいる。

確かに子ども会活動については、
数の減少への危惧ということはある
が、そのことよりも、子ども会の運

営ももっと子どもたちの手にゆだね
た方がよいのではないだろうか。今
のように、おとなが大部分かかわっ
ていると、参加しているという気が
少ないのではないか。何もかもおと

なにやってもらうことに慣れている
今の子どもたちに、自分たちの手で
運営するよう援助していくのは、と

ても時間や労力がかかり、大変なこ
とは、わかるが、一たんそれが軌道
に乗れば、大きい子が小さい子へ受

け継ぎ、子どもたちの縦のつながり
もでき、地域への認識も強いものと
なるのではないか。そうなれば、一

時的に地域から離れても、将来、地
域の活動にもどってまた、活動して
くれるのではないだろうか。

地区センターの自主事業に期待
「自主活動ができる施設ができた

ならば、町はかわっていくと言え
る」と述べられているが、そうだろ
うか？ 施設が出来ただけで、自主

活動が始まるとは思えないのであ
る。そのためには、地区センターと
地域住民がお互に働きかけをしてい

我が町・希望が丘が本になった。
嬉しくなって読みました。——中山文子

ふと手にした「まち1986 地
域の活力と行政」。表紙に「旭区希
望が丘」と書いてあるではありません

んか。「わあ、私の町が本になっ
た！」
今、思い返しても感動的だったと

かかないとならない。そこで、地区セ
ンターの企画に期待している。様々
な講習や、講座を企画し、その受講

者を中心にグループの育成が望まれ
る。それらのグループを核に、活動
の輪を広げていくことにより、それ

ぞれ点や線であった人々やグルー
プがつながりを持ち、活動の輪が広
がっていくのではないだろうか。商栄
会の事業、子ども会活動、青指や、
体指の人たちの活躍も、もっと有効

になってくるのである。そうなっ
てはじめて、「自主活動こそ、これか
らの地域活動のエネルギー源にな

る」と言えよう。
△教育委員会保土ヶ谷図書館V

考えるほど嬉しくて、読み始めたの
は、当然九十五頁の第二部横浜タウ
ン・ウォッチング、その四「旭区希

望が丘」の章からです。
自分の住んでいる町のことを書か
れていますから、どうしても読みな

調査季報90—86. 9

98